

2026年1月

ゲストインサイト

新たな世界におけるサステナブル・インフラ レジリエンス、安全保障、システム重要性が投資戦略をどう再定義するか

サステナブル・インフラの定義は、現在、根本的な転換期を迎えています。かつては主に再生可能エネルギーの発電や脱炭素と結び付けて語られてきましたが、近年では地政学的な現実、サプライチェーンの制約、そして強靱なエネルギーシステムへの要請によって、その意味合いが大きく変化しています。機関投資家にとって、この進化は投資機会の範囲を変えるだけでなく、リスク評価の在り方そのものにも影響を及ぼしています。

過去数年間にわたり、再生可能エネルギーの発電容量は急速に拡大してきました。一方で、近年のエネルギー市場の混乱は、脱炭素だけでは安定性が確保されないことを明確に示しています。柔軟性や系統の強靱性、あるいは安定したサプライチェーンを欠いた低炭素システムは、新たな依存関係や運用上の脆弱性を生み出しかねません。

その結果、サステナブル・インフラは、もはや風力や太陽光といった技術カテゴリーのみで定義されるものではなくなっています。現在では、蓄電ソリューション、系統強化、柔軟性サービス、そして安定的で信頼性の高いエネルギーシステムを支えるデジタルインフラといった、システム上不可欠な資産に注目が集まっています。サステナビリティは、目標志向の概念から、レジリエンスを基軸とした投資フレームワークへと移行しつつあります。

今日のインフラ市場を特徴づけるもう一つの重要な要素は、クリーンエネルギーのサプライチェーンが地政学的な影響を強く受けるようになっている点です。太陽光モジュール、インバーター、バッテリーといった主要部材は、市場の集中度が高く、政治的な感応度も増しています。貿易摩擦、関税、為替変動は、短期間のうちにプロジェクトの経済性に大きな影響を及ぼす可能性があります。

このため、投資家にとってサプライチェーンへの依存は、財務的に無視できないリスク要因となっています。リショアリングやローカライゼーションの取り組みは、短期的には資本コストを押し上げる可能性があるものの、長期的には計画の確実性や実行の信頼性を高めることで、システミックリスクの低減につながります。デューデリジェンスのプロセスにおいても、生産拠点の所在地、取引先の集中度、地政学的エクスポージャーは、従来の市場リスクや規制リスクと並んで評価される項目となっています。



Andreas Ochsenkühn

サステナブル・インフラ

ポートフォリオマネジメント責任者

KGAL Investment Management

近年しばしば語られる「ESGへの反発」は、サステナブル投資からの後退を意味するものではありません。むしろ、表層的なESGラベリングに対する懐疑と、より高い透明性や実証性を求める動きの表れといえます。機関投資家は、サステナビリティがどのようにリスク低減、キャッシュフローの安定、価値保全に寄与するのかに、これまで以上に注目しています。

この変化は、ESG要素の財務的な重要性を示すことができる運用者にとって、大きな機会をもたらします。サステナビリティが、運用上の変動性の低下、収益の安定性向上、あるいはより強固なエグジット価値へと結び付くのであれば、それは独立した物語ではなく、投資判断の中核を成す要素となります。この観点から見れば、ESGへの反発は市場にとって必要な調整過程とも言えるでしょう。

サステナブル・インフラがより複雑化し、かつシステム上の重要性を高める中で、市場リスク、規制、実行面を適切にマネジメントできる経験豊富なアセットマネージャーの役割は、機関投資家にとってこれまで以上に重要になっています。

インフラ市場において、レジリエンスは徐々にバリュエーションを左右する要因となつつあります。系統接続が強固であること、柔軟な収益構造を持つこと、あるいは制約の大きいサプライチェーンへの依存度が低いことといった特性を備えた資産は、すでに投資家から高い関心を集めています。一方で、構造的なボトルネックや運用上の脆弱性を抱えるプロジェクトは、より高いリスクプレミアムを求められる傾向にあります。

2030年を見据えると、次の段階のサステナブル・インフラ投資は、単なる発電容量の拡大ではなく、システムを支える資産が主軸となる可能性が高いと考えられます。蓄電、柔軟性ソリューション、系統サービス、デジタル最適化といった分野は、再生可能エネルギーのさらなる拡大を支える中核的な役割を担っているにもかかわらず、依然として構造的に投資が不足しています。

長期視点を持つ機関投資家にとって、この市場領域は、将来的な重要性がリスクプレミアムに十分に織り込まれていない、魅力的な投資機会を提供しています。この文脈において、サステナブル・インフラは、レジリエンス重視のポートフォリオ構築における中核的な構成要素へと進化しつつあります。

Andreas Ochsenkühn

サステナブル・インフラ
ポートフォリオマネジメント責任者
KGAL Investment Management

